

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

よこはま地域福祉研究センター

②施設・事業所情報

名称：あおぞら保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：荒波進一	定員（利用人数）：120（利用人数134）名	
所在地：横浜市神奈川区六角橋-5-35-15		
TEL：045-481-0875	ホームページ： https://www.aozoranewstyle.com/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：1955年7月20日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 あおぞら		
職員数	常勤職員： 28名	非常勤職員 64名
専門職員	保育士 49名	調理員 4名
	管理栄養士・栄養士 4名	
	看護師・保健師 1名	
施設・設備の概要	保育室6室、乳児室1室、ほふく室1室	事務室、図書室、厨房、職員休憩室、1階・2階ホール

③理念・基本方針

あおぞらの理念として「地域の母親たちの要求から生まれて共同保育の精神を受け継ぎ、「保育は幼児教育である」として子ども一人ひとりの全面発達を保障する」としています。

【保育目標】

- ・友だちの中で全身を使って思いっきり遊べる子をめざす
- ・子育てという重大な仕事を父母 地域とも連携し さらに深めながらおしすすめる

④施設・事業所の特徴的な取組

- ・園は横浜市営地下鉄ブルーライン「片倉町駅」あるいは「岸根公園駅」から徒歩10分ほどの丘の上にあります。周囲は住宅地ですが、近くには広大な岸根公園があり毎日の散歩を楽しむことができます。
- ・園舎は鉄筋の2階建てで、屋上では夏にプールを開くことができます。2階からは避難用の滑り台が設置されています。
- ・通常の保育事業に加えて一時保育事業、24時間型緊急一時保育を実施しています。そのために、園舎には一時保育室や夜間専用の保育室を備えています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年5月19日（契約日） ～ 2021年12月16日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（2017年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

◆子どもたちの自発性・自主性が大切にされ、のびのびと成長しています

子どもたちの自発性・自主性を保育士たちは大切に育てています。一斉保育での製作の場合にも、決まった教材よりも廃材を多く利用しています。これにより子どもたちの一人ひとりの感受性が大切にされ、自由な発想が引き出されています。戸外遊びは近くの広い公園を園庭同様に使っています。そこでは思いっきり体を動かして遊んでいます。遊びの中で子どもたちは友だちとの関わりを学び、遊びを楽しくするルールも自分たちで自由な発想で生み出しています。このような中で子供たちはのびのびと成長しています。

◆地域への取組を積極的に独自性を持って行っています

一時保育、24時間型緊急一時保育を実施しており、そのための保育室も確保しています。今年はコロナ禍の影響で地域への取組がやや停滞しましたが、通常は地域への取組が積極的に行われています。地域子育て支援としては、子育て相談、育児講座、園庭開放などを行い、また地域住民を様々な保育園行事へ招待するなどしています。乳幼児の支援にとどまらず、卒園児の同世代の居場所づくり、学習支援活動なども計画していたり、地域の防災拠点運営委員会に参加して地域との関係作りに積極的に取り組んでいます。さらに「地域ふれあいまつり」では、商店街の協力を得てスタンプラリーを実施したり、保護者によるパパママバンドで演奏会を開くなど、多彩で独自性を持った地域への取組を展開しています。

◇改善を求められる点

◆職員の積極的参加による中・長期計画の策定が期待されます

法人は中・長期的な課題として、利用者に安心を与える保育士の確保、多様な利用者ニーズへの支援、地域の子育て世代への支援を取り上げていますが、事業の目標といったレベルにとどまっています。これを5年後にはどのような園になっているか、そのためにはどのように取り組んでいくかを具体的に明確にし、実施の状況を評価し、必要ならば改善していくことができるような仕組みが必要となってきます。その中で、「今年度はこのような取組を実施していきます」といった、中・長期計画と連動して単年度計画が作られていくことが求められます。また、このような計画の策定、実行、評価という一連の流れの中で、職員の積極的参加と経営層と職員が一丸となって目標に向かっていく体制づくりが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

コロナ禍の中で、制約された保育の時期に第三者評価を受けました。園児は濃厚接触をしながら成長します。感染対策と子どもの発達にとって何を大切にするのか、保育理念や方針に立ち返りながら工夫を行ってきました。オンラインによる研修や集会への参加、園内での学びと討議を深め、子どもの権利としての排泄、子ども主体の運動会の取組みの議論や実践を、保護者と共有して進めてきました。「子どもは地域で育つ」を合言葉に、集合型のイベントではなく、オンライン企画や商店の人とのふれあいをつくるイベントを実施し地域活動を行ってきました。また当園の特徴ともいえる24時間型緊急一時保育室や一時保育は、利用者が増加傾向にあり、地域の子育てニーズに応えた取組を行ってきました。これらの点が高く評価されたことを職員の自信につなげていきます。年度当初の定員割れが市内でも問題になり、より積極的に園の理念や方針を説明する見学説明会や在園・卒園児保護者と保育園探しをしている家庭と交流する企画を実施するなど、マッチングの取組みも行ってきました。

一方で中長期的なビジョンの「見える化」が改善点として指摘があり、園として課題となっていたことが明確になりました。持続可能な保育園運営、さらに社会福祉法人とし

て求められる役割を發揮するために、少子化を見据えた中長期計画を、職員の参画と保護者や地域の意見も取り入れ策定していきます。

- ⑧第三者評価結果
別紙2のとおり